

住宅耐震診断等の補助を活用しませんか！

対象

- 次の要件を満たす木造住宅にお住まいの方
- ◇平成 12 年 5 月 31 日以前に建てられた市内の木造住宅(長屋・共同住宅を除き、併用住宅含む)
- ◇2 階建て以下
- ◇延べ床面積 400 平方メートル (約 120 坪) 以下
- ◇木造軸組工法 (在来工法) にて建築 (桝組壁工法、丸太組工法等は対象外)

申込み

改修着手前に、申込書を建築課へお持ちいただくか、電話・郵送・ホームページからお申込みください。

申込書は、建築課又は行政局産業建設課 (19 ページ参照) やホームページで配布しています。

<https://www.city.tanabe.lg.jp/kenchiku/kenchiku/kenchiku-taishin-shindan.html>

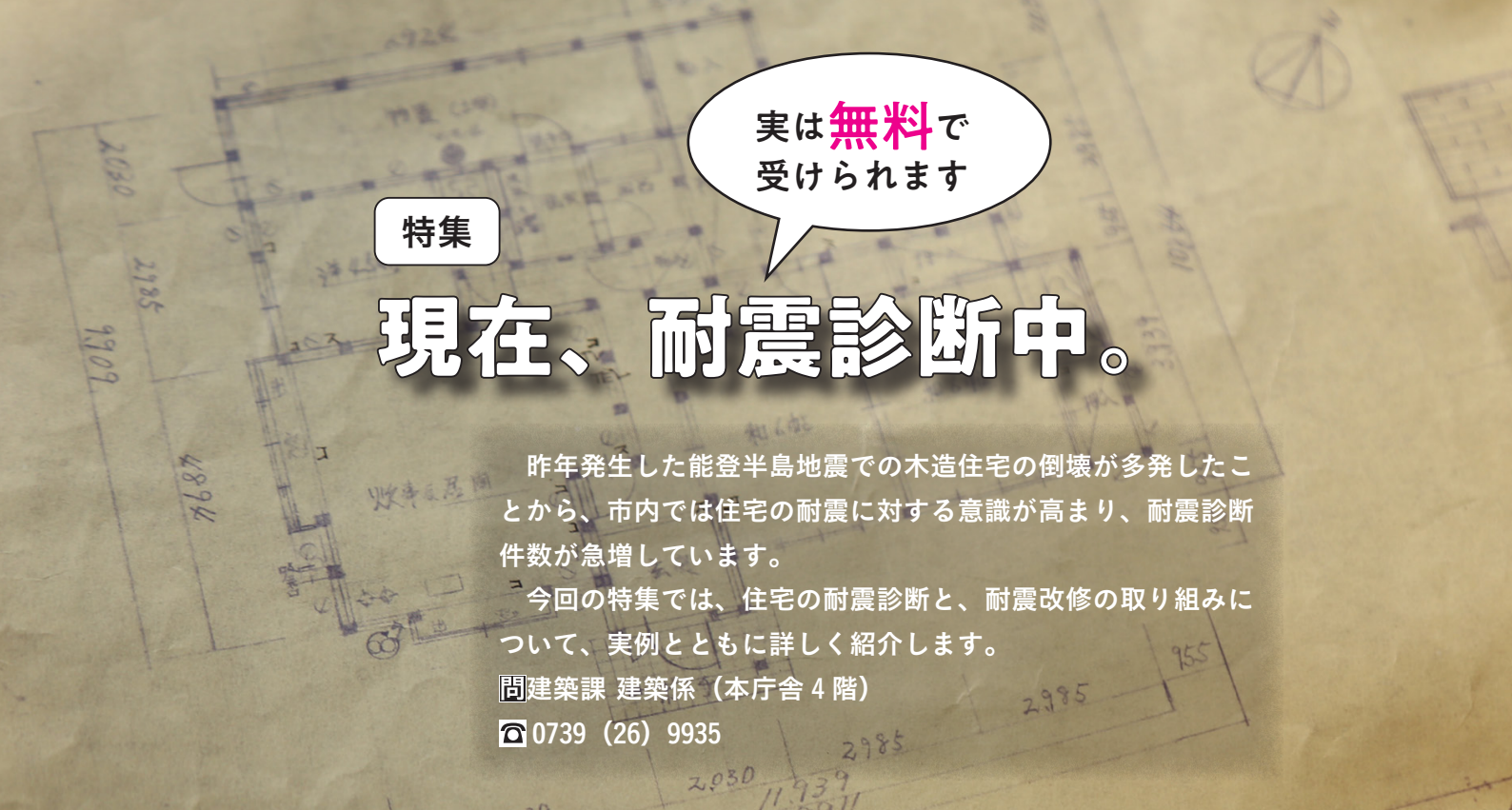
補助金額

| 種類    | 補助金額        | 募集件数<br>[先着] |
|-------|-------------|--------------|
| 耐震診断  | 診断費用の全額     | 250 件        |
| 耐震改修  | 最大 150 万円   | 100 件        |
| 現地建替え | 最大 131.6 万円 |              |

■注意事項

- ◇現地建替えの場合、次の適合要件あり
  - ・省エネ基準に適合すること
  - ・土砂災害特別警戒区域外に住宅を築すること
- ◇令和 8 年 2 月 27 日までに事業が完了すること
- ◇補助金には国費、県費が含まれるため、他の補助制度を活用する場合は、補助金の併用が可能かどうかを確認すること

補助制度を活用する場合は、設計事務所や工務店と契約する前に必ず建築課にご相談ください！



特集

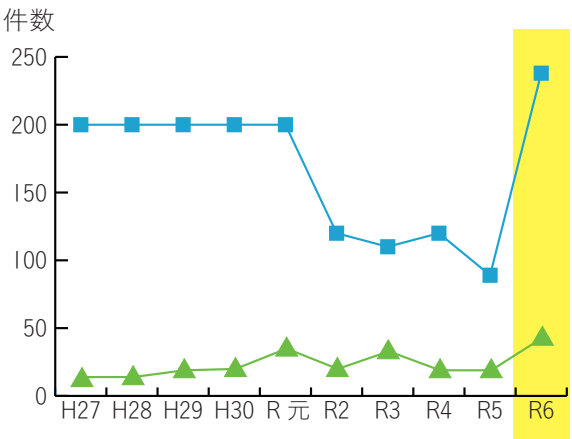
現在、耐震診断中。

昨年発生した能登半島地震での木造住宅の倒壊が多発したことから、市内では住宅の耐震に対する意識が高まり、耐震診断件数が急増しています。

今回の特集では、住宅の耐震診断と、耐震改修の取り組みについて、実例とともに詳しく紹介します。

問建築課 建築係 (本庁舎 4 階)

☎ 0739 (26) 9935



田辺市の過去 10 年の実績

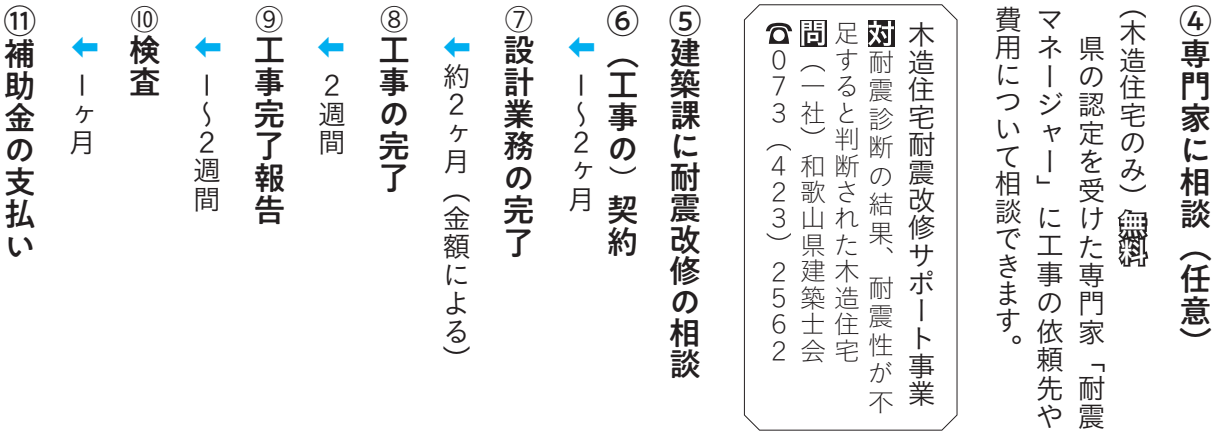
- 耐震診断の件数
- ▲ 耐震改修補助の件数

平成 16 年から始まった市の耐震診断と耐震改修補助の件数が本年度、過去最高を記録しました。(左グラフ)

しかし、現状では市内にはまだ約 6,000 戸もの耐震基準を満たしていない住宅が存在するとされています。

耐震改修までの流れ

施工例：200 万円程度の改修工事の場合



Interview

## 耐震診断を終えて



たかお 森 隆男さん まさえ 真砂絵さん  
＝中辺路町野中＝

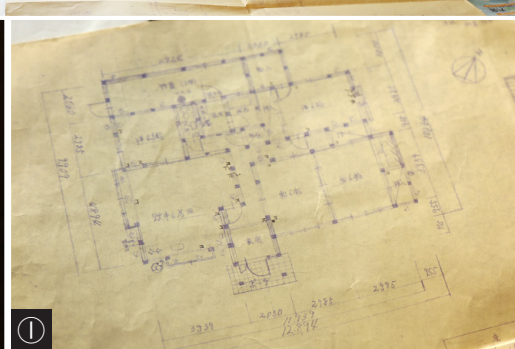
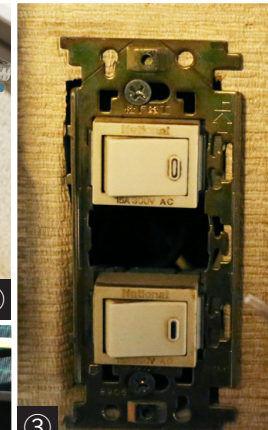
柳川さんは私の親戚という縁もありましたが、何より耐震診断を受けようと思ったのは、去年、地域の防災組織の会議があった際に、柳川さんから耐震診断・耐震改修の必要性を説かれ、その説明が分かりやすく納得できたからです。公の場で皆が柳川さんの話に納得していたのが印象的でしたね。

同じ地域の先輩が先頃耐震補強を行ったのですが、私の家と同じ年代に建てた家だったことも耐震診断を決意できた一因ですね。耐震診断は、本当にすぐ終わって、自分たちが何をするわけでもないですし、無料で気軽に受けられて、今の家屋の状態が分かります。

私たちのように耐震診断を受けた人の感想や受けたきっかけが広まれば、皆がやろうと思うのではないかと思います。そういう意味では地域のコミュニティは大事だと考えますし、これから地域で耐震診断を受ける人が増え、私もやってみようかなと思えるようになれば、地域全体の耐震対策につながるかもしれません。



①②建設当時の図面。依頼者と一緒に現在の間取りと違いがないか調査③コンセントや照明スイッチのカバーを外して壁仕上げ材を確認④耐震性にとって重要な基礎部分の状態などを床下から確認⑤専用の機材で基礎に鉄筋が入っているかを確認⑥基礎部分のひび割れが深刻な場合は、アンカーボルトの保持力が低くなる可能性がある⑦壁を軽くノックし、音の響き方などから材質を推測



## 人を「守る」

なる危険性や、細い道では倒壊した建物によって緊急車両が通れなくなることも考えられます。

**地域単位での取組を**

本年度、田辺市では約250件の耐震診断を行うなど、全国的に見ても耐震化への取組が進んできています。耐震診断制度が始まってから、年々診断の精度は上がっており、市からの補助金で安価に補修ができる場合があります。避難重視型の補強を行うだけでも、今より地震や津波の被害から逃れる可能性が少しでも



増えるので、積極的に耐震診断を行ってもらいたいです。そのためにも地域のつながりやコミュニティを通じて地域単位で耐震化に取り組めるようになればいいと思います。

## 家であるために

## 耐震化を考える

耐震化を考える上で、もっとも重要なのは基礎と土台の有無。一昔前

を意識していただきたいと思い、耐震診断士になってから、率先して耐震診断を行ってきました。また、現在の県の耐震マネージャー制度ができる前から、耐震診断後にその後の補強工事などの耐震計画を提案していました。

## 設計士の経験から

東日本大震災で被災地支援のボランティア活動を行った際に、家屋の倒壊など痛々しい光景を目の当たりにし、設計士として家の建設に携わった立場上、責任をもって「人を守る」家にする必要性を感じました。市民の方に耐震診断を受けることを意識していただきたいと思い、耐震診断士になってから、率先して耐震診断を行ってきました。また、現在の県の耐震マネージャー制度ができる前から、耐震診断後にその後の補強工事などの耐震計画を提案していました。



耐震診断士  
ひろみ 柳川 廣美さん

長年、設計士として、様々な家を見てきた柳川さん。近年の地震等での家屋の被害を見ると、自分たちが設計した家がもしかすると人の命を奪ってしまうかもしれない——。自分たちで建てた家が命を守れる家であるために、耐震診断をぜひ受けてもらいたい、そう柳川さんは話します。

この一年、耐震診断・耐震改修の件数が増加したのは、能登の地震があった、耐震改修の意識が高まったことがあるといえます。地震が頻発している地域や雨が多い地域だと、揺れや雨漏りによって知らず知らずのうちに家を支える木材にダメージが積み重なり、大きな地震で崩れてしまうケースが考えられます。また倒壊した建物に押さえつけられ動けなく

は日本瓦土葺きの非常に重い屋根の家が多く、地震よりも毎年のように訪れる強風・台風といった災害に備える意識が高かったといえます。平成12年に新しい耐震基準が設定されたから、柱と土台や桁等を固定する柱接合金物の設置が必須となりましたが、平成12年以前の住宅は、柱接合部が脆弱なので耐震性が不足しがちです。

この一年、耐震診断・耐震改修の件数が増加したのは、能登の地震があった、耐震改修の意識が高まったことがあるといえます。地震が頻発している地域や雨が多い地域だと、揺れや雨漏りによって知らず知らずのうちに家を支える木材にダメージが積み重なり、大きな地震で崩れてしまうケースが考えられます。また倒壊した建物に押さえつけられ動けなく



耐震リフォームをされた添田さんご夫妻（左・中央）と、建築士の田上さん（右）

時、起こったのが能登半島地震でした。耐震への大きな関心と、さらなる重要性に気づかされるきっかけとなりました。

### Ⅰ耐震性と土地の安全性Ⅰ

耐震診断と改修の見積が無料だったため、診断を気軽に受けることができました。耐震上の問題を指摘していただけたおかげで、リフォームに踏み切ることができました。

補助金制度が充実していたことも後押しとなりました。補助金制度を活用することで、従来の予算では実現できなかった新築並みの耐震性や断熱性を持つ家に改修することが可能となりました。

建築士の田上さんの助言もあり、ハザードマップを確認し、避難場所の確保などについても考えるきっかけとなりました。

## 思い出のある家に安心を

## これから暮らす家だから

安全対策を学ぶと共に資格取得に励んでいます。

移住先は築30年程の家だったため、耐震改修とリフォームをすることにしました。

能登半島地震のこともあって、早急に耐震改修が必要だと感じていました。診断してもらうと、予想外に耐震性が低いことが分かりました。元の家主はきれいに維持管理していたので、手を加える部分は少なかったのですが、やはり何か所か手直しが必要でした。補助金制度が手厚く感じたので、市の補助金を申請しました。

### Ⅰ家族の安全な居場所にⅠ

耐震改修と台所の全面リフォームは工務店にお願いし、自分たちでは趣味のDIYを生かしてトイレや洗面所、壁塗りなどをしました。「わかやまライフ」という県のサイトを利用して、リフォームに関する補助

### Ⅰ耐震改修をしてみてもいいかな

リフォームは、信頼のおけるプロの助言とサポートが欠かせません。おかげで完成後の家は、外見や内装が美しいだけでなく、耐震性と断熱性に優れた家となりました。高齢の両親との同居への配慮もあり、介護の視点から使いやすいレイアウトになりました。

土地の安全性も確認した上で、リフォームだったため、今後の生活への安心感も得られました。

### Ⅰ耐震改修しませんかⅠ

まだ耐震リフォームに踏み切れていない方には、無料診断や見積りの利用を勧めたいです。耐震改修は家が壊れないことで避難経路を確保でき、地域を守る一助になります。

安心で住みやすい家への一歩として、補助制度を活用した耐震リフォームを検討してみてくださいでしょうか。

制度について調べ活用させていただきました。業者さんとやり取りを重ね、予算内で満足いくものとなりました。念願の薪ストーブを入れたのでこれからの暮らしが楽しみです。

妻は、自宅を子どもたちと安全でリラックスできる場所にしたい。私も家族との時間を大事にしたかったので、安心して一緒に遊べる環境を作ろうと思いました。

### Ⅰ無料診断だけでもⅠ

無料診断があるのは大きなメリットで、耐震改修は上限金額があるものの、補助制度があるのは本当にありがたいです。家の耐震性に不安がある人は、無料診断や見積をお願いするだけでもおすすめです。リフォームや改修は敷居が高く感じるかもしれませんが、まずは無料診断から始めてみてはいかがでしょうか。



建築課  
武田主査

### 防災に強いまちづくり

#### Ⅱぜひ補助制度の活用をⅡ

耐震改修は補助金制度があっても踏み切りにくいかもしれません。木造住宅の耐震診断だけであれば無料で受けることができます。「自宅は改修が必要か」「改修はどれくらいの費用になるか」が分かってくるので、まずは耐震診断の受診を検討してほしいです。

市では、県の住宅耐震改修補助金などに独自の補助金を上乗せしています。耐震改修は自分や家族の身を守るだけでなく、近所の人々の安全も守ることにつながり、結果として防災に強いまちづくりが実現できます。補助金のことやこの工務店に相談すればいいから分からない場合など、お困りの際は建築課にご相談ください。

#### Ⅱできることから対策をⅡ

耐震改修は難しいということであれば、家具の転倒防止や耐震ベッドなど、自分と家族の命を守るため、できる範囲で防災の備えをして、身を守っていただきたいと思います。

## 耐震ベッド・シェルター購入設置補助

耐震診断の結果、上部構造評点が1.0未満（4ページ参照）の場合、県が指定する耐震ベッド、耐震シェルターの購入、設置費用が補助されます。

### ■補助金額

購入設置費用×3分の2（最大26.6万円）

☞ <https://www.city.tanabe.lg.jp/kenchiku/kenchiku/taishin-bed-shelter.html>

